

授業科目	言語発達障害Ⅳ（評価法－各論）				
担当者	齋藤典昭・川畑武義・岡崎満希子				（オムニバス）
専攻(科)	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	後期	選択・必修	必修

■ 内 容

- ・言語検査である「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査・訓練」を学ぶ（齋藤）
- ・WISC - IVの概要と検査結果の見方、指導への活かし方の基礎を学ぶ（川畑）
- ・言語発達障害Ⅲで学んだ新版K式発達検査2001を用いて実際の子どもに検査を実施し、報告書を作成する（岡崎）

■ 到達目標

1. 検査の概要を述べることができる（齋藤）
2. 検査を実施することができる（齋藤）
3. 検査サマリーを作成することができる（齋藤）
4. 新版K式発達検査2001による検査結果とその他の情報を統合して、報告書にまとめることができる（岡崎）
5. WISC - IVの概要と実施・評価についての基礎知識を習得する（川畑）

■ 授業計画

- 第1回 「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」検査用具に触れ、検査項目との結びつきを知る（齋藤）
- 第2回 「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」段階3-2の検査項目、DVD教材視聴（齋藤）
- 第3回 「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」段階4-1、4-2、段階5-1、5-2の検査項目、記録用紙への転記方法（齋藤）
- 第4回 「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」段階2の検査項目、コミュニケーション態度の評価、DVD教材視聴（齋藤）
- 第5回 「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」提出課題の説明、サマリーの作成演習。（齋藤）
- 第6回 「国リハ式＜S-S法＞言語発達遅滞検査」サマリーの作成演習。（齋藤）
- 第7回 WISC - IVの概要（川畑）
- 第8回 WISC - IVの実施手順と評価（川畑）
- 第9回 WISC - IV実技演習（川畑）
- 第10回 WISC - IV検査結果の解釈について（川畑）
- 第11回 新版K式発達検査2001 実技演習（岡崎）
- 第12回 新版K式発達検査2001 実技演習（岡崎）
- 第13回 新版K式発達検査2001 実技（岡崎）
- 第14回 新版K式発達検査2001 プロフィール作成演習（岡崎）
- 第15回 新版K式発達検査2001 フィードバック・まとめ（岡崎）

■ 評価方法

齋藤担当分については課題提出物40%、演習参加行動10%で評価する。※遠隔授業になった場合は課題提出物50%で評価する。岡崎担当分については実施後の検査用紙、報告書を合わせて40%分の評価をする。川畑担当分については授業内レポートによって10%分の評価をする。

■ 授業時間外の学習（予習・復習等）について

- ・「言語発達障害学」p.198-p.216＜S-S法＞の部分を読んでもらうこと。（齋藤）
- ・新版K式発達検査2020の講義については、言語発達障害Ⅲ（評価法-基礎）の内容と検査マニュアルを復習し、実際の検査場面の記録と結果処理の仕方（採点や計算など）を確認しておいて下さい。演習は検査を実施する学生と観察室から検査用紙に記載する学生に分けます。実施する学生については、事前に担当教員との相談をして下さい。（岡崎）

■ 教科書

■ 参考図書

書名：新版 K 式発達検査2020実施手引書
出版社：京都国際社会福祉センター

■ 留意事項

新型コロナウイルス感染症対策や不測の事態（災害等）が発生した際、遠隔授業による授業運営に変更する可能性がある。また、新型コロナウイルス感染症の感染状況や入構禁止等の措置を講じた場合は、評価方法を変更することがあり、評価方法を変更する場合には、講義支援システム（Moodle）を通じて周知する。

■ 講義受講にあたって